

昔話法廷

ねらいと展開

第4話「アリとキリギリス」裁判

本時のねらい

- 被告人のアリが有罪か無罪かについて、番組で説明される証言や証拠、検察・弁護双方の言い分を理解して、多面的に考察し、自分の考えを持つことができる
- 理由を明確にして自分の考えを伝え合うことができる

展開例 ※()は中高の時間

時間の目安	主な学習活動	指導上の留意点
	1. 課題を確認して番組を視聴する	
17分	<ul style="list-style-type: none">・理由や根拠を明確にして自分の考えを伝え合うことを確認する・裁判員裁判について簡単に説明し、自分も裁判員になったつもりで中立の立場で視聴する・大事なことはメモを取りながら視聴する	<ul style="list-style-type: none">・番組視聴後、裁判員として判決を考え、話し合うことを確認する・先入観を持たないよう、昔話の内容を視聴前に説明しない・法廷でのやり取りだけを根拠にして考えることを確認する・なぜそう考えたか根拠が大切になるので、メモをとるよう指導する
	2. 裁判の争点を確認する	
3分	<ul style="list-style-type: none">・今回考えるのは、アリが保護責任者遺棄致死罪で有罪か無罪かとういこと・親友でも保護責任を問われる・母親は遠く離れた町で暮らしていたので保護責任は問われない	<ul style="list-style-type: none">・この授業では何を考えるのか確認する・キリギリスを助けることができたのはアリだけだったことをおさえる
	3. 自分の考えを決定する	
5分	<ul style="list-style-type: none">・自分の考えを決定し、その理由をワークシートに記録する・特に判断の決め手となった証拠がどれかわかるように書く	<ul style="list-style-type: none">・理由をしっかりと書かせる <p>*タブレット端末で視聴する場合は理解に応じて繰り返し視聴する時間を設けたり、根拠となるシーンの静止画像を撮影させたりする</p>

時間の目安	主な学習活動	指導上の留意点
4.裁判で出た証言や証拠をクラス全体で整理しながら、討論する		
15分 (20分)	<ul style="list-style-type: none"> ・理由を明確にしながらか討論する ・はじめに結論を述べ、次に理由や根拠を述べる ・相手の説明をよく聞き、質問をしたり反論をしたりして自分の考えを深める ・心が動いた意見はメモしておく ・司会役の教師や児童生徒は、論点表を活用してもよい 	<ul style="list-style-type: none"> ・証拠の数で判決が決まるわけではないことを押さえる ・教師は板書でそれぞれの証拠を整理する ・板書上に写真(資料としてアップしてある)を活用して整理してもよい ・クラスの実態に応じて、司会役の児童生徒を設けてもよいし、教師が司会役を担ってもよい ・出てきた意見に対し「この証拠はこんなふうにもとれないか？」などの問い返しをし、違う見方をさせたり、批判的思考を促したりする <p>*タブレット端末を活用する場合は、根拠となるシーンの静止画像を提示しながら討論してもよい</p>
5.最終的な自分の考えを決定する		
5分	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の考えも参考にしながら、最終的に自分はどうか判断するか、理由とともにワークシートに記入する 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の論を作ることがゴールなので、クラスでの判決は出さない ・自分の意見の変容があれば、誰のどんな考えに影響を受けたか書くよう指導する